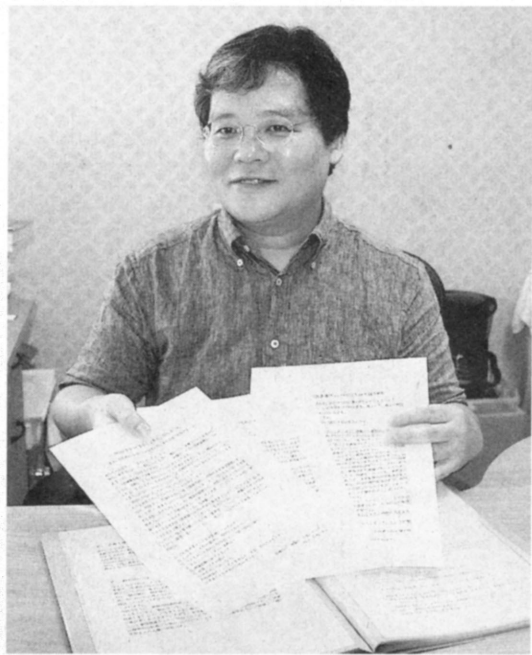


医師と患者、つなぐ一冊

浜松の開業医 白鳥さん 院内報を小冊子に



毎月発行している院内報を手にする白鳥院長

浜松市恩地町の開業医白鳥政之さん(43)が病院で発行している院内報「鶴通信 くぐいだより」を1冊の小冊子にまとめ、希望者に配布している。

院内報は、白鳥さんが日々の診察などで感じたことをつづったもので、2003年8月から月1回発行している。

内容は「頭部CT(コンピュータ断層撮影法)はどんな時にやるの?」や「糖尿病」「インフルエンザ」など、病気に

関することのほか、かかりつけ医院の選び方や間違いたらけの医者選びなど多岐にわたる。

白鳥さんは中学時代、肺がんで亡くなった父親への主治医の冷たい対応を目の当たりにし、大学院生の時には、腸

閉そくで苦しむ母親が病院をたらい回しにされて亡くなるといった苦い体験をしている。こうしたことが、患者本

位の医療を心掛ける動機となり、そのためには患者との人間関係を築くことが大切だと

思ってきた。

ところが、診察に訪れる患者の大半は、病気については医者任せで、自分で情報を調べたり、疑問点や意見をぶつけてきたりすることはほとんど

でない。「これでは患者や家族にとって満足のいく治療は受けられない」と痛感し、どのように病院や医師にかかればいいかを患者にわかりやすく伝えたいと、院内報の発行を思いついた。

小冊子は2年分の院内報に要約が添付されている。白鳥さんは「医者の務めは患者の幸せのために最善を尽くすこ

と。この冊子が病院へのかかり方や、医者との接し方の参考にしてみらえればうれしい」と話している。

希望者には無料配布(郵送代は個人負担)する。問い合わせは、白鳥内科医院(053・427・0007)まで。

病院選びの参考に 希望者に無料配布